

【七月の言葉（令和元年）】

## 人間みんな裁判官

「あなた有罪、私は無罪」

私たちは自分が生まれ育ってきた環境・考え方・価値基準を心地よく感じ、決してそれを崩そうとはしません。そして、自分で作った自分に都合の良い法律で他人を裁こうとします。それが私たちの本性のようです。自分の立場や意見を守るためには他人を悪者扱いにしてしまえば良いとの考え方です。

私が罪悪深重の凡夫であるとの認識は、阿弥陀如来の真実と正義をいただくことで生まれます。人間の愚かさを反省するためには、仏の教えを聴く以外にはないのです。

「歎異抄」に“地獄は一定すみかぞかし（私たちにとって地獄は決まった住み家のようなものですよ）”と示され、私たちは地獄に落ちる大きな罪を背負って生きていることが知らされます。

しかし、どんな罪にも勝るのが阿弥陀如来の救済の力（本願力）です。自己の罪業を深く懺悔し、阿弥陀如来の本願に出会っていく者は、必ず救われます。

（木村世雄著「こんなの書いてある」参照）